68

『古今医統大全』の鍼灸について

田中利江子
日本鍼灸研究会

『古今医統大全』百巻は徐春甫（生没年未詳）の著した医学全書で，明の嘉靖35（1556）年に成立している．明以前の歴代の医書及び経史百家の医学に関する資料を収録し，古説を引いて医学理論を簡明に論じている．本書に述べられている鍼灸は，明代鍼灸を考える上においても，また日本近世鍼灸に対する影響という面からも重要であるので，以下，その内容を報告する．

構成

巻1は著名な医家，医書の略解，巻2は『内経』の要旨，巻3は医制や医学概論，巻4は『内経』の脈候，巻5は運気論の概説，巻6～7は鍼灸と続く．巻8～84は各病別に，『内経』以下の諸書を引用して，病機，脈候，薬方，鍼灸，養生などを述べる．巻85は周産期，巻86～87は老人科，巻88～90は小児科，巻91は痘疹，巻92は奇病，巻93は経験秘方，巻94～96は本草，巻97～98は製薬や薬方，巻99～100は養生から構成されている．

解析

本書の鍼灸巻には巻6～7が充てられている．巻6は「経穴発明」と題され，『霊枢』経脈篇や『鍼灸聚英』を礎とし，多数の図と歌賦を加えて，尺寸法を述べ，次いで十四経脈別に蔵象，経脈流注，経穴歌，経穴部位，鍼灸法，主治，刺入深度，灸の壮数を列挙し，督脈，任脈を除く奇経六脈の走行と穴名を論じている．巻7は「鍼灸直指」と題され，『素問』『霊枢』より原理原則を引用し，九鍼図を掲げ，方位，日時，人神などによる鍼灸の禁忌，疾患ごとに鍼灸の手技と方法について解説している．ここでもしばしば歌賦が採録されている．

本書では鍼灸巻以外にも，鍼灸に関する論述や篇，条文が散見する．論述形式のものとしては，巻2・内経要旨下・鍼刺篇第十一が『素問』11篇より14ヵ所を引用して原理原則を説き，巻3・翼医通考下・医道の鍼灸薬三者備為医之良で『鍼灸聚英』より143字を引用し標題の一般論を陳べるに止まる．鍼灸に関する篇は10篇あるが，そのうち巻80の9篇は瘡瘍に関するもので，腫瘍に対する鍼灸の有効性と，病態別の鍼灸法（主に切開と隔物灸）について論じている．また巻90・小児灸法第三十九では『明堂灸経』より小児45疾患に対し72条にわたって穴法と灸の壮数を記すが，小児灸法は灸艾の大きさが小さくなるのみで，治法は大人と異ならないとしている．各病門末には「灸法」が37項設定されており，2～12穴を挙げて部位や壮数を記載している．ただし，「灸法」と題されているにも拘わらず，禁鍼1穴，鍼刺入深度2穴が見られる．同様に「鍼灸法」は病門末に27項あり，鍼灸併用13条，灸法のみの記載5条，鍼法のみの記載13条（そのほとんどは排膿を目的とした手技），刺入深度1条が見られる．

上記いずれの形式にも属さず，病機や湯液処方の文中に散見する鍼灸条文は，鍼灸併用21条（①併用のみ記載9条，②穴法もしくは手技2条，③湯液併用4条，④禁鍼灸4条，⑤鍼灸効果無し2条）である．灸119条（①灸とのみ記載29条，②穴法のみ23条，③壮数のみ14条，④穴法と壮数13条，⑤禁灸1条，⑥家伝の灸2条，⑦隔物灸33条，⑧その他4条），鍼130条（①鍼とのみ記載51条，②穴法のみ18条，③手法や深度15条，④穴法と手技9条，⑤鍼種19条，⑥鍼種と穴法もしくは手技10条，⑦禁鍼4条，⑧その他4条）である．

結語

鍼法は巻6に僅かに対応疾患に対する刺入深度の記載が見られる以外，ほとんどは排膿排血を目的としている．灸法は鍼法と比較すると部位や壮数の記載が見られるが，灸艾の大きさなどの具体性に乏しく，そのまま運用できるものは少ないように思われる．